

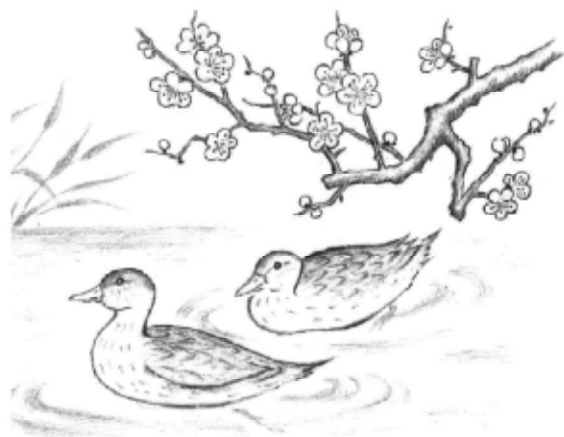
● 顕現後第六主日

泉のほとり

今日の詩編「第六〇篇」

神と共に我らは力を振るっています。

神が敵を踏みこみじつてくださいます。



あなたがたは地の塩、世の光

イエスキスは「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなければ、その塩は何によって塩味がつけられよう。もはや何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである」と言われました。「塩気のない塩」は「塩」とは言えないでしょう。形だけは塩かもしれませんが、塩味がなければ、捨てるべきものです。塩の役割は必要な時に塩味がしつかりと出せるようになっていることが重要です。それが唯一の役割です。

例えば、人を愛する時にも「塩気」はなくてはならないものです。使徒パウロは「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は白慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える」と言われました。そして使徒パウロは塩気のない「愛」を「騒がしいドラ」、*「やかましいシンバル」*とも表現しています。しかし塩気のある者は自分が置かれているところで塩としての役割を忠実に果たして生きるの

です。塩が塩味を出すことは当然の役割のゆえに、人を愛しても騒がしくありません。

塩はその「味」によって、塩であることが明らかにされます。光もそうです。光であるなら、光の正体は隠すことはできません。必ず「よい行い」がその人を通して現れるのです。そして光も「照らす」ことが当然の役割のゆえに、「よい行い」をしたという認識もないのです。しかし、人々は照らされる光を見て、その人の天の父をあがめる、と言うのです。

「地の塩、世の光」と言われています。塩として本来あるべき姿に、光としての本来のあり方に、いかにして私たちがそう「ある」のか、その一点だけに忠実に生きたいと思えます。真の「地の塩、世の光」として来てくださった、柔和でへりくだったキリストがこの地上を先に歩いてくださいました。そのお方に学び、従っていきいたい。私の中にまだある、あらゆる不純物が取り除かれ、そこにキリストの塩気によって塩付けされていきたいと願うものです。そのようにして天の父の聖なるお名前のみがあらがられますように。

(マタイ五・一三〜一六)

模範

パウロ、
キリスト・イエスの使徒・・・

テモテへの第二の手紙一章一節

あなた
みたび聖なる方よ

いかに

私はあなたに語つたらよいか、
あなたが かの使徒とともに
私をも

使徒の務めへ選ばれたのでなかつた
ら

その きは？

世界の

なかで、祈ることだけが

なおも助けとなる処で、

この最後の可能性を

私が思わぬことがないように。

どうか

私を使徒に倣う者とし

彼の在り方の素晴らしさを

味わわせてください。

あなたに仕える男女のために

私は願う。

彼らがあなたの力を味わわぬまま、

むなしき言葉を語ることが

ないようにと。

聖書は、御言葉に仕える者たちが人間を再
生へともたらし、心を神の方へ向け直さ
せ、もろもろの罪を赦すと教える・・・

神が我々を教会の職務を通して再び生まれ
させるからではなくて、ほかに、いつたい

どうして教会が、信する総ての者の母とよ
ばれるであろうか。

ヨハン・ハインリヒ・プリングラーへのカル
ヴァンの言葉

R・ポーレン 「祈る」より

今日のお知らせ

○第二礼拝後、ホールで讃美と報告の後、レン
トを迎える準備の会をします。お昼はお弁当
です。

○今週一四日(水)からレント(受難節)に入
ります。今年は四月一日がイースターです
が、その前日まで、日曜日を除く四〇日間を
レントの期間として、主イエスの十字架の苦
しみとその恵みを思いながら過ごします。日
曜日を除くのは、日曜日が復活の祝いの日だ
からです。

○来週一八日のホール集会から、証しと祈りの
会が始まります。教員がこの一年間に受け
た神さまの恵みの証しをします。どうぞお聴
きください。

○今年のレント推薦図書は、カトリックの片桐
弘史神父が書かれた「こころの深呼吸吸気づき
と癒しの言葉366」です。最後に満ちた短
いメッセージが心に残ります。ディアコニア
ショップでお買い求めください。

○一六日(金)午前一一時からシオンの会を断
きます。今回はハイデルベルク信仰問答の問
一一六、一一九を学びます。新しい方の参加
を歓迎します。

四国だより

(前回のつづき)

これらの事の始まりは、キリスト品川教会にある日、松山在任の方がお訪ねした事によるもので、主の御恵みの不思議を思います。全てを思い、主と品川教会に感謝いたします。

十二月三十一日に六十歳と思われる女性が初めての教会出席です。どうぞ宜しくと来会されました。教会の場所に行きつけず、三度捜してやっと来る事が出来たと大喜びでした。礼拝が始まり祝美になると、ハンカチで涙を試っておられ、それは礼拝の最後まで続いていました。姉妹は、「自分でもなぜこんなに涙が溢れてくるのかわからないのですが、涙が止まりません」との事。靈魂の奥底に主が直接に触れて下さったのだと確信し、心より主に感謝いたしました。これまでどの宗教との関わりもなく教会に行つた経験も無いとの事でした。今回はどうしてもキリスト教会に行つてみたい思いが強くなって、この教会を捜してみつけましたとの事。お家は教会の近くで

す。毎週喜んで礼拝出席され、尊いご奉仕もして下さっております。

冬將軍が四国連山に舞い降りてきました。が、「冬来たりなば春遠からじ」の思いで教会に励んでおります。

吉村先生、黄先生、教会員の皆様の尊いとりなしのお祈りに私たちは励まされ、感謝申し上げます。

二〇一八年一月十二日

田端良恵記

聖書の会へどうぞ

2月14日(水)

●朝の聖書の会(10時)

「恐れるな」

使徒18章1〜11節

黄允湜副牧師

●聖書の夕べ(19時)

「あなたがたのために」

ルカ22章14〜23節

吉村和雄牧師



次週礼拝

●第1礼拝(午前9時30分)

讚美歌讚21〜17番 わたしのように

説教「人は神の言葉で生きる」

聖書マタイ4章1節〜11節

説教者黄允湜副牧師

●第2礼拝(午前11時10分)

讚美歌142番 339番

詩編第60編

説教「自分の真実を知る信仰

聖書IIコリント13章5節〜10節

説教者吉村和雄牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 讃21-17番

わたしのように

説教 「腹を立ててはなりません」

聖書 マタイ5章17節～26節 (新約P7)

司式 山名隆史兄

説教者・聖餐司式 古村和雄 牧師

前奏曲「メヌエット」G.F.ヘンデル

○讃美歌21-17番

1. 聖なる主の美しさと その栄えを 仰いで
まごころもて み前に立ち
み名をたたえ あがめよう
2. 重荷すべて 主が代わって
負ってくださる うれしき
悩み多い 世の旅路も みちびく 主のみ恵み
3. 心つくし 主に仕えよう
とるに足らぬ 私の愛のわざも 身も心も
主は受け入れ よろこぶ
4. 闇をかえて 光とする 主の恵みの 實さ
望みは湧き おそれは消え
胸に満ちる よろこび アーメン

○ソプラノによる讃美

「主イエスのもとに」フォーレ

○わたしのように

1. わたしのように 小さな子でも
真心こめて 主をたたえれば
主の御心に かなうでしょうか
※感謝します 感謝します 感謝します 神さま
2. 小鳥の声や きれいなもみじ
野菜 果物 海でとるもの
ふた親 兄弟 友達など

□□ ※くりかえし

3. 荷ものよりも 罪やあやまち
おゆるしになる イエス・キリストを
くださいました 父なる神に
※くりかえし アーメン

聖餐曲「アリア」G.F.ヘンデル

後奏曲「アレグロ」J.S.バッハ

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 59番 229番

詩編 第60篇 (旧約P893)

説教 「狭い門から入りなさい」

聖書 マタイ7章13節～29節 (新約P12)

司式 山名隆史兄・聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教者 黄允湜 副牧師

前奏曲「シャコンヌ」D.ブクステフーデ

○讃美歌 59番

○ソプラノによる讃美

「主イエスのもとに」フォーレ

○聖歌隊による讃美

「全地よ、主をたたえよ」T.リス

全地よ主にむかい ほめ歌うたえよ
かしくみたたえよ きたりて喜べ
主こそ神にまし われらを統べたもう
われらはその民 その牧のひつじ
喜びうたいて みかどを入りつつ
み名をばたたえて 天庭に来たれ
主はめぐみ深く あわれみ絶えせじ
主のまことかたく ときわに変わらじ
とわときわに アーメン

○讃美歌 229番

聖餐曲「魂の花婿」S.カークラフト

後奏曲「アレグロ」J.S.バッハ

※礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。